

1. 科目名 (単位数)	図画工作Ⅱ (小) (2単位)	3. 科目番号	SJMP2141 EDEL2304
2. 授業担当教員	森本 昭宏		
4. 授業形態	実技、講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	図画工作Ⅰの単位を修得した後に履修することが望ましい。		
7. 講義概要	図画工作Ⅰにおいて習得した基礎的な技能や知識をさらに深め、子どもの造形活動の事例を例証・傍証として取り上げ、表現活動を展開する上で必要とされるより実践的な力を身につけていくことを目的とする。 実技や講義を主体として、具体的な素材体験や題材研究を重ね、指導者として造形教育の実践の場に通用する幅と深みを有した力を養っていく。発展的な制作活動のなかで造形の面白さを実感し、自己の表現を追求するとともに、他者の表現に共感できる感性を養い、子どもの創造性豊かな造形活動を支えるために必要な素養を身につける。		
8. 学習目標	1. 技術的な「上手・下手」とらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、造形教育の指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 毎時の制作課題をファイリングして提出する。 2. 参考書第4章 (1-2) 「描画表現の発達論」と「子どもの描画の特徴とその背景」を読み合わせてそれぞれ600字程度で要点を記述する。その他課題については、授業の中で提示する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】新野貴則、福岡知子『明日の小学校教諭を目指して子どもの資質・能力を育む 図画工作科教育法』 授業の進行に伴って参考資料プリントを配布する。 【参考書】槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 (図画工作Ⅰで購入済みの教科書も活用) 【教材や道具など】準備が必要な物は事前に告知する。各自が用意する。		
11. 成績評価の規準と評価の方法	○成績評価の規準 1. 児童の表現に寄り添った造形活動の在り方について考えを深め、実践的な力がついたか。 2. 発達段階における造形表現の特色や、造形素材や題材化に関する知識が身につけられたか。 3. 児童の豊かな造形活動を支える基礎的造形力、技能が身につけられたか。 ○評価の方法 授業への取り組み、制作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。 1. 授業への積極的参加 総合点の20% 2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み 総合点の30% 3. 制作や鑑賞活動の成果 (ポートフォリオ等) 総合点の30% 4. 課題 (作品発表、レポート等) 総合点の20%		
12. 受講生へのメッセージ	本授業では、造形表現にかかわる発達の理解を深め、援助ができる実践的な力を習得。現場で用いられる様々な造形活動を楽しむことから始め、子どもたちへの適切な援助・配慮について理解するとともに、保育を改善する視点を身に付けることをねらいとする。具体的な指導場面を想定した模擬保育等を通じて、子どもの多様な表現にも対応できる応用力のある指導者を目指していく。 また、幼稚園教育等の基本を踏まえ、領域のねらい及び全体構想、作品評価の考え方を理解する。造形における幼児の発達や造形あそび等の過程を理解した保育構想の向上に取り組む。 【注意事項】 1. 造形活動で用いられる様々な材料・用具 (画用紙・紙粘土・筆等) は、各自が準備すること。授業内で随時伝えていく。 2. 絵の具などを使用するため、汚れても良い服装で出席すること。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンスと班プレゼンテーション 主体的・対話的なグループ活動と造形あそび (新聞紙を使った任意の衣装の製作と造形あそびについて) (講義+演習)	事前学習	教科書 P106~109、P76 を読みグループごとにテーマを決めて、新聞紙で任意の衣装と小道具の制作を考える。初回のため、授業の中で詳しく説明する。
		事後学習	グループ内での意見交換に積極的に参加、役割分担を決めて、アイデアを投影して作品発表会につなげる。紙を破る、折る、切る、編むといった様々な表現の効果に触れる。
第2回	版を使った表現①【凸版 紙版画Ⅰ (切り取り版)】 ハサミで自由に切り取り主題を強調させる。台紙の範囲内で形の組み合わせや配置などを考える (講義+演習)	事前学習	教科書 P70,71 を参考に、いろいろな「写す」技法について材料の事前準備をする。
		事後学習	紙を任意の形に切り取り、のりで貼る重なり効果に気づくとともに、表現活動への意欲・関心を高める。
第3回	版を使った表現②【凸版 紙版画Ⅱ (台紙版)】 工夫しながら版をつくる。美しく刷り上げるための刷りの技法を理解する。パレンやローラーを使った様々な表現を楽しむ (演習)	事前学習	紙の重なりによって遠近、空間、量感を表現する。そのための構想を考え完成予想図を簡単にレイアウトしてこること、材料の準備をする。
		事後学習	絵師・彫師・摺師の浮世絵の技法を紙版画の世界では、自身ひとりで制作する。そのことの楽しさを理解するとともに、刷る度に変化

			する表現の違いにも気づく。
第4回	子どもの造形表現の発達（造形表現の発達論・観察画・生活画・心象表現ほか）と発達に即した指導・援助について （講義）	事前学習	1年次の教科書を用意。又は配布資料を読み事前準備する。
		事後学習	描画表現の発達や子どもの描画の特徴とその背景について調べたことをまとめる。
第5回	紙工作：仕掛けのあるおもちゃなど、様々な表現を楽しむ（六角カード・不思議なカード・ポップアップカード）作品についての発表 （講義＋演習）	事前学習	紙工作について作品の構想を練り、製作に使用できそうなイメージと資料を収集する。
		事後学習	作品を相互に見せ合い鑑賞することから、対話型の鑑賞の仕方について触れる。実習の導入に活用するなど、作品の活用法についても話し合う。
第6回	芯材を使った粘土制作① 粘土の特性と種類 様々な児童の粘土表現を鑑賞するとともに、触角的な活動の意味を体験的に理解する。モデリングとカービングなどの技法について （講義＋演習）	事前学習	作品の大きさを想像して、計画的にピン、麻紐、割りばしなどを用いた芯材の構想を練る。
		事後学習	紙粘土、油粘土、小麦粉粘土、土粘土などの粘土のさまざまな種類と特性について理解するとともに、それらをまとめてくる。可塑性について理解するとともに、次回の作品の材料準備をする。
第7回	芯材を使った粘土制作② 強度や安定感のある作品を作るために芯材を活用する。動静や量感といった粘土表現の特性を意識して、動きのある（ポーズ）人形を制作する （演習）	事前学習	教科書 P235、239 を参考にして材料の準備を進める。
		事後学習	芯棒、骨組み、肉づけ、量塊、安定感など、粘土の表現と特性を理解する。
第8回	芯材を使った粘土制作③ 仕上げ、着色 着色・保存の仕方について理解するとともに、作品展示や環境構成について考察する （講義＋演習）	事前学習	表現したいことやテーマを再度確認しておく。乾燥後の着色を想定して、必要な資料（作品の模様や柄などの装飾等）を準備。
		事後学習	素材の特性を生かす仕上げと展示を工夫。制作工程をまとめてファイリングする。
第9回	光と影の世界（影絵シアター） 視聴覚教材の活用について、レジオエミリアのドキュメンテーションなど、光と色彩の効果についての教材例を紹介するとともに、影絵の魅力を理解する （講義＋演習）	事前学習	教科書 P93 と配布資料を読み、作り方を理解する。
		事後学習	授業の中での説明を受けて、視聴覚教材を用いた、光と影の活用法などについてまとめる。
第10回	光と影の世界（影絵シアター） グループワーク 光を活用した造形遊びの展開 （講義＋演習）	事前学習	グループで物語の登場人物などを想像して下絵を完成させる。
		事後学習	想像力・創造力・集中力・空間認識力を育み、五感を刺激する影絵の魅力について理解する。
第11回	影絵・ペープサート・人形劇などの物語の歴史について（心を動かす出来事との出会いを話し合い、物語の起承転結とクライマックスの演出効果について共有する。学校教育の現場での発表を想定した舞台設定を考える） （講義＋演習）	事前学習	事前配布資料を読む。
		事後学習	光の角度や色で影の形が変わり、子どもは自由な発想で物語を創造できる。腕が動くなどの仕掛けの特性を理解すると同時に、実習を想定した題材・物語の台本を作成させる。
第12回	影絵シアターの演じ方と舞台設定（ICT 視聴覚教材の活用）課題のまとめ 発表会と相互評価 （講義＋演習）	事前学習	プロジェクターなどの ICT を活用した演出が想定されるため、影絵の背景についても事前にパワーポイントで映像の準備を進める。
		事後学習	発表会の鑑賞後、相互評価コメントをまとめてファイリングする。
第13回	オンライン美術館（ICT 教育について） 「Google Arts & Culture を使用した造形表現の研究」 「アールブリュット障害者アートについて」 （講義＋演習）	事前学習	小学校図画工作の教科書に掲載されている世界の名画・芸術作品などを事前に調査してくる。
		事後学習	拡張 AR を用いた美術館鑑賞教育の取材作品 1 点について感想をまとめる。
第14回	絵に表す活動 水彩絵の具について 水彩絵の具による混色の方法を試しながら、対象の色や形の特徴を捉える見方を深める。 （講義＋演習）	事前学習	教科書 P146～149 の題材を読む。中学校で学ぶ三原色や明度・彩度・色相について復習してくる。
		事後学習	混色の方法と対象の観察の方法を理解して、混色シートを完成させる。
第15回	絵に表す活動 絵画の技法について ぼかし、にじみ、ドリップング、吹き絵など様々な技法の理解を深める （講義＋演習）	事前学習	教科書 P232 の絵の具で描く様々な技法について理解する。
		事後学習	完成した作品を相互評価。授業全体を振り返り、コメントをまとめてファイリングする。